

新型コロナウイルス感染拡大での目の健康

川口市立医療センター 眼科 **末吉 真一** (すえ よし しん いち)



新型コロナウイルス感染症が世界中で拡大しています。目からのウイルス感染にどのように注意し、また、目の病気からいかに自分を守るのか、日本眼科学会および日本眼科医会では以下のように呼びかけています。

- 新型コロナウイルスは口や鼻といった上気道の粘膜から感染しますが、目の粘膜組織である結膜からも感染する可能性があります。目をさわらない・こすらない、手を洗うこと(石鹸による十分な手洗い)を心がけましょう。
- 点眼薬をさしている場合、点眼の前と後に十分に手洗いを行ってください。他の人と点眼薬を共有してはいけません。
- 眼科への受診のタイミングが遅れ、病気を悪化させることのないようにしましょう。以下のような症状がある場合、早い対応を要する可能性があります。
 - ① 急激な視力低下を感じて、数時間から半日たっても戻らない場合
 - ② 急激な視野異常(視野の一部が欠けるなど)を自覚する場合
 - ③ 充血をとまなう目の激痛を自覚する場合
 - ④ 頭痛や吐き気をとまなう目の痛みが続く場合
- 普段から定期的に眼科に通っているかたは、通院の間隔を延ばせる場合もありますが、必ず担当医にご相談ください。自己判断は禁物です。

がんの予防には、生活習慣の見直しと定期的ながん検診が大切です

がんは日本人の死因第1位。現在日本人の2人に1人はがんにかかり、3人に1人はがんで亡くなります。この病気は生活習慣の見直しによって「なりにくくする(予防する)」ことができます。

健康習慣を実践することでがん発生のリスクを下げられます

<p>禁煙</p>	<p>バランスのとれた食生活</p>
<p>適度な運動</p>	<p>適正体重の維持</p>

早期発見! 定期的ながん検診を受けましょう

自覚症状がなくても、検診によってがんが発見される可能性があります。新型コロナウイルス感染症を必要以上に恐れず、マスクの着用や手指の消毒などの感染予防に十分注意し、今年もがん検診を受けましょう。

市のがん検診は、令和3年2月末まで実施しています。

※新型コロナウイルス感染症対策のため、中止になる場合があります。

問地域保健センター

☎ 048-256-2022 FAX 048-256-2023

川口市けんしんガイドブック



ワンポイント手話講座

今月は「コミュニケーション」を紹介します。①→②の順番で表現します。

- ① 湾曲させた両指を上下にかみ合わせます。
- ② 交互に前後に動かします。



問障害福祉課
☎ 048-259-7926
FAX 048-259-7943

オオゴマダラ

～特別展示～

日本最大級の蝶「オオゴマダラ」を、グリーンセンターで特別展示しています。

→詳細は19ページ



金色のサナギ



世界に羽ばたけ蝶博士

市立根岸小学校6年生 **野崎 将史くん** (のざき まさふみ)

8月にリリアアで開催された「日本の蝶・世界の蝶」展。約8千頭の美しく不思議な蝶が展示される中に、蝶をこよなく愛する一人の少年が標本にした蝶も展示されていた。

「簡単に捕まえることができないうのが蝶の魅力」と、目を輝かせて話す野崎くん。

きっかけは、4年前に同じくリリアアで開催された同展。その中で行われた標本づくり教室に参加し、蝶の美しさや標本をつくる楽しさを覚え、それまでほとんど関心のなかった蝶への強い興味が生じた。

「休日には、見沼自然の家の周辺などで蝶の記録と採集をしています。川口は自然が多く、蝶の生育にはいい環境だと思います」と、笑顔で語る。

市内で採集した蝶は、埼玉県では絶滅危惧Ⅱ類に指定されるヒオドシチョウを始め51

種。標本のコレクションはすでに約2千五百頭に上る。また、自ら採集した蝶をレポートにまとめた自由研究は、市の科学展で見事、3年連続最優秀賞に輝いた。

まさに大人顔負けの知識を持つ「自分の知識はまだまだです」と、探究心は尽きることはない。採集した蝶の生態や亜種を図書館で調べ、周囲の大人からも情報収集するなど、日々調査、研究が続く。

標本づくり教室の講師を務めた、日本蝶類科学学会の安藤俊之さんは「小学校6年生であだけの知識は素晴らしい。私は彼のような子が一人でも増えてほしい」との思いで、活動をしてほしい。今後とも研究を続けてほしいですし、将来をとても楽しみにしています」と、嬉しそうに話してく

「今の目標は珍しい蝶の採集や、一番好きなアカボシゴマダラの新亜種を見つけることです。これからも研究は続け、世界中の蝶を実際に見て採集したい」とその表情にこれから大きく羽ばたくであろう蝶博士の気概を感じた。

新型コロナウイルスによって、子ども達も多くの我慢を強いられることになった。その中でも、好きなことへの情熱を絶やすことなく追求し続ける姿勢は、コロナ禍でも子どもは多くのことを学び、成長することができることを証明している。

子どもは未来の宝。希望の羽をいっしょに広げ、世界に羽ばたけとエールを送りたい。

